

## 【B年】

### 復活節第七主日（昇天後主日）

み子イエス・キリストに永遠の勝利を与え、天のみ国に昇らせられた栄光の王なる神よ、どうかわたしたちをみなしごとせず、聖霊を降して強めてください。そして救い主キリストが先立っていかれたところに昇らせてください。父と聖霊とともに一体であって世々に生き支配しておられる主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン

司祭 「聖書のみ言葉を聞きましょう」

会衆は着席する。

### 使徒言行録

朗読者 「使徒言行録は第一章十五節以下から」

15 そのころ、ペトロは兄弟たちの中に立って言った。百二十人ほどの人々が一つになっていた。16 「兄弟たち、イエスを捕らえた者たちの手引きをしたあのユダについては、聖霊がダビデの口を通して預言しています。この聖書の

言葉は、実現しなければならなかったのです。17 ユダはわたしたちの仲間の一人であり、同じ任務を割り当てられていました。18 とところで、このユダは不正を働いて得た報酬で土地を買ったのですが、その地面にまっさかさまに落ちて、体が真ん中から裂け、はらわたがみな出てしまいました。19 このことはエルサレムに住むすべての人に知れ渡り、その土地は彼らの言葉で『アケルダマ』、つまり、『血の土地』と呼ばれるようになりました。20 詩編にはこう書いてあります。

『その住まいは荒れ果てよ、

そこに住む者はいなくなれ。』

また、

『その務めは、ほかの人が引き受けるがよい。』

21・22 そこで、主イエスがわたしたちと共に生活されていた間、つまり、ヨハネの洗礼のときから始まって、わたしたちを離れて天に上げられた日まで、いつも一緒にいた者の中からだれか一人が、わたしたちに加わって、主の復活の証人になるべきです。」23 そこで人々は、バルサバと呼ばれ、ユストともいうヨセフと、マティアの二人を立てて、24 次のように祈った。「すべての人の心をご存じである主よ、この二人のうちのどちらをお選びになったかを、お示ください。25 ユダが自分の行くべき所に行くために離れてしまった、使徒としてのこの任務を継がせるためです。」26 二人のことでくじを引くと、マティアに当たったので、この人が十一人の使徒の仲間に加えられることになった。

朗読者 「使徒言行録を終わります。」

詩編

腰掛けたままで、一節ずつ交互に唱える。

第四七編

1 すべての民よ、手を打ち鳴せ＝ 神に喜びの叫びを上げよ  
2 いと高き神、主は畏るべき方＝ 世界を治める偉大な王  
3 神は諸国をわたしたちにゆだね＝ 諸国の民をわたしたちの足の下に置かれた  
4 神はわたしたちのために譲りの地を選ばれ＝ 愛するヤコブの誓れの地を与えられた  
5 神は喜びの叫びのうちに＝ 主は角笛の響きとともに上られた  
6 ほめ歌え、神を。ほめたたえて歌え＝ ほめ歌え、わたしたちの王を。ほめたたえて歌え  
7 神は全地の王＝ ほめたたえて歌え  
8 神は諸国を治め＝ 神は尊い座に着かれる  
9 アブラハムの神の民とともに諸国の王は集まった＝ 地の君たちは神のもの、神はすべての人にあがめられる

使徒書

朗読者 「使徒書はヨハネの手紙Ⅰ 第五章九節から」

9 わたしたちが人の証しを受け入れるのであれば、神の証しは更にまさっています。神が御子についてなされた証し、これが神の証しだからです。10 神の子を信じる人は、自分の内にこの証しがあり、神を信じない人は、神が御子についてなされた証しを信じていないため、神を偽り者にしてしまっています。11 その証しとは、神が永遠の命をわたしたちに与えられたこと、そして、この命が御子の内にあるということなのです。12 御子と結ばれている人にはこの命があり、神の子と結ばれていない人にはこの命がありません。13 神の子の名を信じているあなたがたに、これらのことを書き送るのは、永遠の命を得ていることを悟らせたいからです。14 何事でも神の御心に適うことをわたしたちが願うなら、神は聞き入れてくださる。これが神に対するわたしたちの確信です。15 わたしたちは、願う事は何でも聞き入れてくださるといことが分かるなら、神に願ったことは既にかなえられていることも分かります。

朗読者 「使徒書を終わります。」

一同立つ。  
ここで聖歌を歌う。

## 福音書

司祭 「主は皆さんとともに」

会衆 「また、あなたとともに」

司祭 「聖ヨハネによる福音書第十七章十一節以下に記さ

れた主イエス・キリストの福音。 主に栄光」

会衆 「主に栄光がありますように」

11 聖なる父よ、わたしに与えてくださった御名によって彼らを守ってください。わたしは彼らたちのように、彼らも一つとなるためです。12 わたしは彼らと一緒にいる間、あなたが与えてくださった御名によって彼らを守りました。わたしが保護したので、滅びの子のほかは、だれも滅びませんでした。聖書が実現するためです。13 しかし、今、わたしはみもとに参ります。世にいる間に、これらのことを語るのは、わたしの喜びが彼らの内に満ちあふれるようになるためです。14 わたしは彼らに御言葉を伝えましたが、世は彼らを憎みました。わたしが世に属していないように、彼らも世に属していないからです。15 わたしがお願ひするのは、彼らを世から取り去ることではなく、悪い者から守ってくださいること

です。16 わたしが世に属していないように、彼らも世に属していません。17 真理によって、彼らを聖なる者としてください。あなたの御言葉は真理です。18 わたしを世にお遣わしになったように、わたしも彼らを世に遣わしました。19 彼らのために、わたしは自分自身をささげます。彼らも、真理によってささげられた者となるためです。

司祭 「主に感謝」

会衆 「主に感謝します」